

「スタートライン Start Line」今村彩子監督との交流会

山形県立山形聾学校

平成29年10月11日水曜日午前、自転車日本縦断ロードムービー「スタートライン」を制作した今村彩子監督が山形聾学校に来校され交流会が行われました。この映画は、コミュニケーションをテーマにし自転車で沖縄から北海道まで日本縦断の旅に挑戦した様子を映画化したものです。

会場の山形聾学校までは、地元サイクリング愛好会の方と一緒に今村監督自ら自転車で来校されました。交流会会場には、児童生徒（小学部・中学部・高等部）と教職員が集まり今村監督との出会いを楽しみに待っていました。前日に映画「スタートライン」を鑑賞した児童生徒からは、様々な質問があり、質問には、分かりやすく、丁寧に答えていただきました。まず始めに、ご自身の聴覚障がいのことや、今村監督の中学校時代、高校時代のことを中心にお話いただき、中学時代から、映画が好きで、将来は映画を作りたいという夢を持ってらっしゃったこととお伺いできました。「一生懸命がんばれば、それなりの結果がついてきます。」「皆さんが、今がんばっていることは何ですか？」の質問に、児童生徒からは、数学、部活、漢字などの答えが返ってきました。「苦手なことだけでなく、得意なことも頑張ってください。」と励ましの言葉もいただきました。

コミュニケーションについては、撮影中のエピソードで、一緒に撮影した人に「あなたは、聞こえないからコミュニケーションができないのではない。下手なだけだ。」と言われて、私はとても嬉しかった。コミュニケーションが無理だと言われたら、自分の力では何もできないと思ってしまう。でも「下手だ」と言われたことで、どうやらうまくいくかを考えることができた。「みなさんにも、できないと決め付けずに、できない理由は何だろうと考えてみてほしい。」と今村監督の体験から熱いメッセージも届けられました。

そして、人とコミュニケーションをするためには、「相手に「あたなと仲良くしたい、話をしたい」という姿勢を自分から見せることで相手との距離が縮まることや、人生で出逢えるのは少ないのだから、縁を大切にしたいと思っている。」ことなど、映画制作を通して学んだこと等、同じ立場で、人生の先輩として直接語りかけるようにお話を伺いすることができ児童生徒も大変感動していました。児童生徒の中には、自分も自転車で日本縦断してみたいという感想もあり、夢と希望、元気をいただいた交流会となりました。交流会の最後には、昇降口前で日本縦断をした旗を持ち、今村監督を囲んで全員で記念撮影をするなど今村監督と山形聾学校児童生徒との絆が深まりました。

